

令和5年度 自己評価・学校関係者評価 報告書

I 自己評価

岐阜県立東濃フロンティア高等学校

学校番号

6507

1 学校教育目標	一人一人の個性を大切にし、主体的に生きる人間の育成に努める。 1 真理の探究・・・創造力豊かな自ら学ぶ生徒の育成 2 人格の陶冶・・・他を思いやる心豊かな生徒の育成 3 体力の増進・・・心身ともに健康でたくましい生徒の育成				
2 スクール・ポリシー	『育てたい生徒像』 グラデュエーション・ポリシー（GP） ・主体的に学ぶ姿勢と、進んで自らの人生を切り拓く意欲的な生活態度を身に付けた生徒 ・モラルやマナーを尊重する態度と、望ましい勤労観や職業観及び社会性を身に付けた生徒 ・心身ともに健康で逞しく、「生きる力」を身に付けた生徒	『生徒をどう育てるか』 カリキュラム・ポリシー（CP） ・少人数教育を活かした、生徒の特性に配慮した魅力ある授業づくりの推進と、授業において、基礎・基本を明確にすることによる、主体的な学習態度の育成。 ・基本的な生活習慣を確立させ、ルールやマナーを理解し遵守する自己指導能力の育成。 ・特別な配慮が必要な生徒への支援の在り方の研究の推進と支援の実践。	『どんな生徒を待っているか』 アドミッション・ポリシー（AP） ・学び直しのできる学校において、自ら学ぶ態度と基礎的・基本的な学力を身に付けたい生徒。 ・社会的な自立を目指して、自己肯定感を高め、「生きる力」を身に付けたい生徒。 ・地域活動や生徒会活動、部活動などの校内の活動などに積極的に参加し、よりよい学校や社会を築いていこうとする意欲のある生徒。		
3 現状の分析	○「学び直しのできる」学校づくりについて、8割以上の保護者・生徒の賛同が得られており、「本校に入学してよかった」という生徒も8割をこえている。三部制・単位制の特色を生かした本校の学校運営の姿勢については概ね理解が得られていると考えられる。 ▲従来から多かった不登校経験を有する生徒に加え、発達障がい診断を受けている生徒や外国にルーツを持つ生徒などの多様な生徒が増えており、生徒が中学校までにつけられなかった基礎学力の充実や自己肯定感を醸成し、生きる力をつけさせることが求められている。				
4 学校の抱える課題	・基礎的な学力の定着を図り、学ぶ意欲を育て、生徒一人一人の進路実現を果たすこと ・生徒に達成感や充実感、自己肯定感及び自己有用感を与える指導と支援を行うこと ・家庭との連絡を密にとり、家庭と共同して生徒の育成を図ること				
5 今年度の具体的な重点目標	◇・基礎学力の育成…本校独自の教材や科目を活用し、少人数教育の特色を生かして、基礎学力の確実な定着を図る。 ・社会性の涵養…ルールやマナーを順守する姿勢や、仲間とともに生きる力を育成する。 ・キャリア支援の充実…「総合的な探究の時間」を通して、適切なキャリア教育を推進する。				

年 度 目 標			年 度 末 (途中) 評 価			
6 評価項目 領域・分野	7 重点目標の達成に必要な 具体的取組・方策	8 達成度の判断・判定基準 あるいは評価指標	9 取組状況・実践内容 評価項目の達成状況等	10 評価 A・B・C・D	11 成果と課題	12 総合 評価
教育課程・学習 指導	①基礎・基本の定着と主体的な学習 態度の育成をめざした学習指導の 推進	①年2回の公開授業週間を利用し 教材研究による授業改善 ②年2回の「授業に関するアンケート」実施 ③考查情報分析(欠点者数の推移 や再試結果等)	①F科目、少人数クラスを設定し、教員 が丁寧でわかりやすい授業を心がけた 授業に取り組むことができた。 ②ICT教育機器の利用についての研修 や意見交流を通して、分かりやすい授 業の実践に繋げることができた。	B	▲学習支援という点で、継続 的かつ効果的な支援を行う 必要がある。情報共有し、 心理的サポートをしながら 学習支援を続けていく必要 がある。 ○授業については、履修条件 を周知徹底することで取り 組み状況について改善が見 られた。授業アンケートで	A
	②特色と魅力ある三部制・単位制・少 人数授業の効果的実践	①生徒及び保護者の学校評価 ②「授業に関するアンケート」実施 と分析	①保護者や生徒の学校評価から、本校の少 人数授業や少人数クラスに対する期待や 満足度は高く、その教育的な効果を実感し ている。	A		

			②授業に関するアンケートで多く生徒が授業の取り組みに対する改善が見られた。		も、授業がわかりやすいという意見が多く、生徒側の視点で授業を行いたい。	
	③教員の資質を高める研修の推進	①年2回の公開授業週間（他教科も参観する） ②年2回「授業に関するアンケート」実施と分析 ③ICT教育機器利用	③コロナ渦も集結し、年2回の公開授業週間互いの授業を参観し合うことで、生徒理解や授業改善に繋げることができた。 ③ICT教育機器利用について、理解を深めることができた。	A	○ICT教育機器については多くの教員が利用できている。今後は効果的な活用についての研究を深めていきたい。	
進路指導	①CT(チャレンジタイム)を活用してキャリア教育を実施する。	①生徒及び保護者等へのアンケート	①1年次は進路ガイダンス、職業インタビュー、2年次は面接指導、進路ガイダンス、3年次はキャリアガイダンス、面接練習を実施した。	B	○合同企業説明会や、1・2年次の卒業生が語る会など実施することができ、進路意識を高める機会が増加した。	B
	②生徒一人一人に合った、適切な進学・就職指導を行う。	②進路実現状況 ②就職内定率	②2年次生の全員に対し、2月に面接指導と面談を行い、進路希望や進路実現のための課題について話を聞いた。また、3年次生全員に対して、面接練習を行った。 ②特別な支援を必要とする生徒に対して早期に対応することができた。	A	▲身だしなみに関する指導をしないことにしたため、卒業までに最低限のマナーや常識を身に付けさせたい。 ○昨年度に引き続きインターシップを、企業の理解と協力により実施することができた。	
	③進路指導に関わる情報を収集し、年次・分掌等へ発信することで学校と外部の仲介役を務める。	③生徒及び保護者等へのアンケート	③キャリア教育の全体計画及び年間指導計画を作成し、それに基づき各年次、分掌と連携し、キャリア教育を実践した。	B		
生徒指導 (教育相談)	①基本的な生活習慣・規範意識の育成 ・社会生活の基盤である生活習慣の確立と、高校生として守るべきルールやマナーを理解し遵守する姿勢を育成する。また、身だしなみを整えさせる。	①生徒・保護者アンケート ①問題行動の状況 ①年次会等での情報共有	①機会あるごとに生活指導を実施した。必要に応じ、年次集会を開いた。 ①身だしなみについては、正装の日に年次ごとに細かく指導ができた。 ①毎週の年次会で生徒情報が共有できた。	B	○問題行動発生時、迅速に情報共有し、組織で対応した。 ▲発達障がいと思われるような生徒について、指導が難しい場面が増えた。 ▲公共の場でのマナーについて何度も指導をする必要があった。	A
	②豊かな人間性の育成 ・内面からの変化を求め、自ら進んで取り組む事のできる自己指導能力の育成を図る。	②生徒・保護者アンケート ②問題行動の状況 ②生徒会・ボランティア活動の状況	②生徒会活動では、生徒が自ら進んで行動できる姿が見られた。 ②中学生との交流事業などを通し、地域や社会に貢献しようとする姿勢が見られた。	B	○生徒会は、自分たちで学校を良くしようと主体的に活動する姿が見られた。	
	③全校体制と共通行動の確立 ・年次を中心とした指導体制の確立と、全職員の共通理解・統一行動を図る。	③年次会等での情報交換 ③企画委員会、生徒指導委員会、主事会等での情報交換	③生徒の状況を、管理職も含め、年次主任や担任、教育相談と情報共有することで、問題行動やいじめに対し、組織的に対応することができた。	B	○問題を抱えている生徒についてケース会議を開き、対応のしかたについて共通理解を図ることができた。	

II 学校関係者評価

実施年月日：令和6年2月5日

- ・学校の取り組みや保護者対応については評価が高いが、働き方改革や学校の取り組みを伝えることが十分できていないので今後改善が必要。
- ・校則（身だしなみ指導）の見直しを、生徒会の主体性を大切にして、保護者とも連携を取りながら丁寧に進めているが今後も継続していきたい。
- ・少人数授業を通して、生徒と教師の信頼関係ができていることが、学校運営協議会の生徒の意見からも強く感じられた。
- ・ICT機器の有効活用や、発達障がいをもつ生徒にもわかりやすい授業づくり（ユニバーサル化）に取り組むことにより、多くの生徒の学力向上につながっていることがとてもよい。
- ・土岐市駅前清掃や思索坂（通学路）清掃などのボランティア活動により、地域の住民の方々の理解を高めることにつながっている。
- ・学校運営協議会委員と生徒会役員生徒の交流により、生徒の声を直接聞くことができよかった。生徒会の活動を通して役員生徒一人一人が自身の成長を実感できていることがとてもよい。
- ・地域と学校が繋がり、情報交換を頻繁に行うことはとても重要であり、より多くの生徒を支援することが可能となる。これまで以上に多様な取り組みをしてほしい。

13 来年度に向けての改善方策案

- | | |
|--------|--|
| (教務) | <ul style="list-style-type: none">・生徒の基礎学力のための共通認識と授業改善・生徒の「理解を高める」ためのICT機器の活用推進・通級による指導の実施に向けての校内体制の確立 |
| (進路) | <ul style="list-style-type: none">・特別な進路支援を要する生徒への対応と外部の協力体制の構築・1年生から3年生までの進路指導の構造的な指導体制の確立・キャリアガイダンスの充実と改善・インターンシップ（就職体験）の効果的な実施方法の研究・新入試制度に対応した進学指導体制の確立 |
| (生徒指導) | <ul style="list-style-type: none">・生徒のネットトラブルを防ぐための情報モラル教育・トラブルの防止と礼儀やマナーの改善・校則を見直すうえでの、身だしなみ指導の在り方のさらなる検討・ボランティア活動等、社会活動への積極的な参加 |